

2026
Summer
MINSAI
CENTER



vol.
98

ダルニー

通信

特集

活動をより知ってもらうために



- 2p. 巻頭言 子どもたちの未来を、皆さまと共に
- 3p. スタディーツアー紹介 エフサステクノロジーズ労働組合様
- 4-5p. 民際センターとの出会いと支援への想い 橋口三保子様
- 6p. イベント報告 庄内町国際交流協会様・シングアウトクワイア様
- 7p. 上田さんの民際コラム③タイは不名誉な称号の継承者
- 8p. 事務局掲示板+編集後記

子どもたちの未来を、皆さまと共に

民際センターが支援しているメコン5カ国の子どもたちは、今日もそれぞれの教室で学びの時間を重ねています。その一つひとつの学びの場の背景には、当団体を支えてくださっている皆さまの存在があります。日頃より変わらぬご厚情を賜り、心より感謝申し上げます。

一方で最近、「支援要請の案内が少し多いのではないか」という率直なお声も頂戴いたしました。大変ありがたく、真摯に受け止めております。

私たちは、資金をお願いする団体である前に、「教育の力を信じる仲間の集まり」でありたいと考えています。お願いの回数を重ねることが目的ではなく、皆さまと共に、子どもたちの成長を見守り、その変化を分かち合うことこそが本来の姿だと考えております。

例えば、カンボジアのある奨学生は、「将来は学校の先生になりたい」と語ってくれました。ラオスでは、初めてコンピューターに触れた生徒が、目を輝かせながらタイピングを練習しています。ミャンマーでは困難な社会情勢の中でも、学校に通えること自体が希望となっています。

私たちを通しての支援は、単なる“奨学金”ではありません。子どもたちの「選択肢」を広げる力です。そしてその選択肢は、支援者の皆さまの思いそのものです。

今後も、支援のお願いだけでなく、

- ・現地からの生の声
- ・卒業生のその後の歩み
- ・学校や地域の変化
- ・教育を取り巻く最新状況

など、読んでいただくだけでも関わりを感じる情報発信を一層強化してまいりたいと思います。

その一環として、このたび民際センター公式 LINE を開設いたしました。

(LINE のご案内、およびご登録方法につきましては最終ページに掲載しております。この機会にぜひご登録いただけましたら幸いです。)

従来のホームページや SNS に加え、より身近でタイムリーに現地の様子や活動報告をお届けしてまいります。ご都合に合わせて、受け取りやすい方法で情報をご覧いただければと思います。

財務改善という現実的な課題は続いております。しかし、それは目的ではなく、子どもたちの未来を守るための手段です。私たちは効率化や経費削減、新しい支援者層の開拓にも取り組みながら、持続可能な基盤づくりを進めてまいります。

どうかこれからも、「支援者」としてだけでなく、「教育を共に育む仲間」として、民際センターの歩みにお付き合いいただけましたら幸いです。

引き続き、温かいご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



公益財団法人 民際センター
理事長 神田 広興



第11回ラオス スタディーツアー エフサステクノロジーズ労働組合様

エフサステクノロジーズ労働組合様は、2002年に小学校2校、2015年に中学校1校へ校舎をご寄贈いただいた支援者様で、現在はカムアン県およびセコーン県の支援校に通う生徒たちへの奨学金支援を中心にご協力いただいています。また、隔年でスタディーツアーを実施し、支援校の訪問・視察や奨学生との継続的な交流を続けてくださっています。

今回は2025年11月22日から28日まで、13名の皆様がカムアン県の中学校と小学校を訪問されました。バン3台に分かれて、舗装はされているものの、起伏や傷みが目立つでこぼこ道を進みながら支援校へ向かいました。

24日にはラマラー小学校、25日にはケンムアン中学校を訪問し、生徒たちと紙芝居や〇×クイズ、折り紙、紙飛行機などのアクティビティを皆様が企画して行ってくださいました。体を動かしながら答える〇×クイズや紙飛行機を一斉に飛ばす場面では歓声が上がり、子どもたちのワクワクした様子が印象的でした。参加者の皆様がまるで先生のように慕われている姿も見られました。

また、学校関係者の方々と終始和やかな雰囲気での交流が行われ、その場に集ったすべての方々が継続した奨学金の支援や交流を喜んでいる様子が感じられました。海外から訪問者が訪れる機会の少ない地域において、日本からの支援者と触れ合い、一緒に楽しい時間を過ごす経験は、子どもたちにとって忘れがたいものであり、世界に目を向けるきっかけにもなることでしょう。

さらに、7名の参加者には奨学生との面談にもご参加いただき、実際に顔を合わせて言葉を交わす機会となりました。学校で食事を共にし、ラオスの歓迎儀式であるバーシーも体験いただくなど、充実した時間を過ごしていただけたことと思います。また、ラオス事業所にもお立ち寄りいただき、支援が現地でどのように届けられているのかについて、より深くご理解いただく機会ともなりました。次回のスタディーツアーでの再会を心より楽しみにしております。



民際センターとの出会いと支援への想い

橋口三保子様

長年、塾講師として英語を教えてこられた経験をお持ちの橋口様。リタイア後はホストファミリーの受け入れや地域の国際交流活動などを通じて、ミャンマー、中国、アメリカ、アフガニスタンといった世界各国の生徒たちとも親交を深めてこられました。また戦中・戦後を含むご自身の経験からも、国籍を問わず子どもたちの教育や暮らしに対して常に問題意識と温かな眼差しをお持ちです。そんな橋口様と民際センターとの出会い、そしてご支援への想いについて伺いました。

【1】民際センターへの支援を始められたきっかけは何ですか？

1999 年のある日、新聞で民際センターの活動を拝見しました。タイの貧しい子どもたちへの学習支援として「ダルニー奨学金」が募集されていることを知り、少しでもお役に立てればと始めました。

【2】支援をされる中で、これまで印象に残っている出来事がありますか？

タイが豊かになるにつれ、カンボジアのある年老いた男性が戦時中に日本軍からひどい扱いを受け、それから日本を信用すると周りの人々に語っているのを知り、カンボジアの子どもたちへの支援に切り替えました。

その後、「ウォータープロジェクト」で、カンボジアの地方にある学校では、生徒たちが遠い川まで水を運びに歩いていることを知り、その支援に参加いたしました。

【3】継続的なご支援をいただいております。現在 15 校目に建設中の「カンボジア ウォータープロジェクト」への想いをお聞かせください。

私は 1942 年に生まれ、間もなく父母と台湾に渡りました。その折、父はある学校で教師をしましたが、当時発疹チフスが流行り、生徒を看病している間に自身が罹り、死亡しました。私が 2 歳になる前、弟は生後 1 か月の時でした。第二次世界大戦の終戦後、日本に引き揚げましたが、引き揚げ船中で祖父も死亡しました。

引き揚げ後は東京にいましたが、水がたびたび止まり、困りました。水が出てくるのを待つしかありませんでした。水は本当に大切です。このプロジェクトで、生徒さんたちが水を自由に使えることを祈っております。

【4】民際センター以外でも教育支援をされていると伺いました。

東京のある学校で、外国人に日本語を教えるための授業に半年間通いました。その際、知り合った友達が、インドの神父さんから、インドの僻地に学校を建てるためのボランティアを依頼されました。彼女はインドの紅茶を教会で販売したり、資金集めの仲間を募集したりして活動しました。私は神父さんからの書信を翻訳したり、資金集めの協力をしたりしました。現地の学校は10年ほどで完成しましたが、密林の中にあるため、教師不足となり、そのための寮を建てる必要がありました。またある時、学校の周りに塀が欲しいと要望があったそうです。虎が出るからとのことでした。

私はこの活動に参加しつつ、千葉県船橋市の国際協力協会の下、日本語ボランティアを20年ほど続けました。

【5】民際センターへのご意見、メッセージがございましたらお願いいたします。

子どもたちは未来の希望です。世界中の子どもたちが生き生きと楽しく暮らせるような世の中になってほしいです。民際センターの皆様のご活動は本当に貴重で素晴らしいことです。

どうか、皆様がお元気に楽しくご活動されますように願っております。



「ウォータープロジェクト」で橋口様から寄贈された給水設備の完成を喜ぶ生徒たち
(2025年3月コンポンチュナン州にて)

イベント報告

民際センターが各地に出向いて活動紹介をさせていただく機会が増えています。今回は、新たに実施したものや、久しぶりに開催したイベントをピックアップしてご報告いたします。

庄内町国際交流協会様

2025年11月9日、山形県の庄内町国際交流協会様より、民際センターの活動紹介とラオスについてお話しする機会をいただきました。民際センターの支援者様である板倉ラオスの会様と庄内町国際交流協会様は以前から交流があり、そのご縁から今回のセミナーのお声がけをいただき、群馬県板倉町にて実施することができました。

当日は職員が現地へ向かい、山形からバスで到着された12名の皆様と合流しました。終始和やかな雰囲気の中でお話しさせていただき、活発な意見交換の場となりました。国際交流に長年取り組まれている団体様ということもあり、皆様の関心は非常に高く、質問や感想が次々と寄せられ、充実した時間となりました。

また、参加者の半数近くがラオスへの渡航経験をお持ちで、中には5回訪問された方もいらっしゃり、皆様のエネルギーあふれるお姿が印象的で、私たちも多くの力をいただく機会となりました。ラオスのダルニー奨学金のご支援にもお申込みいただき、これからもよき関係が継続できることを願っております。



参加者の皆様

シングアウトクワイア様

2025年11月15日、東京の中野ZERO大ホールで行われたAWANO GOSPEL CHOIR-with Special Guest SOEDA&SING OUT CHOIRチャリティーコンサート2025(出演者:約150名、入場者:1,036名)にて、ブース出店と活動紹介をさせていただきました。ブースでは、タイ料理キットやベトナムのトンボの雑貨、オリジナルカレンダーなどを返礼品としてお渡しし募金を呼びかけることができました。出演者も来場者もチャリティーへの意識が高く、たくさんの募金が集まりました。また、他のチャリティー団体様とも情報共有ができる場ともなり、たいへん貴重な機会をいただきました。



民際センターブースの様子



チャリティーコンサート2025 会場の様子

～ライターボランティア上田さんの民際コラム～

第3回：タイは不名誉な称号の継承者

タイ経済の専門家である上田曜子さんに、タイの最近の経済成長について伺いました。タイの子どもたちが置かれている現状をご理解いただけたと思います。

世界銀行が各国の2026年の経済成長率（予測値）を1月に発表しました。タイの成長率は1.8%と、東南アジア諸国の中で最も低い値です。タイがライバル視するベトナムは6.3%でした。

2月には英フィナンシャル・タイムズ（FT）紙がタイを「アジアの病人（sick man of Asia）」と呼び、話題になりました。1980年代中頃～90年代初頭、フィリピンは「アジアの病人」と呼ばれていました。1965年に就任したマルコス元大統領（現在の大統領の父）が1986年に亡命し、その前後のフィリピン政治経済が混迷したからです。

そのようなフィリピンとは対照的に、1980年代後半のタイでは日本企業（製造業）の進出がブームになっていました。日本企業は当時の円高に対応して、労働コストの安いタイに進出してきたのです。1980年代末～90年代初頭、タイは高成長期を迎えました。

今回FT紙は、タイを「アジアの病人」と呼んだ理由をいくつか指摘しました。その一つが高齢化に伴う人口減少・社会保障費の膨張です。推計では、タイは2029年頃に超高齢社会へ突入するそうです。超高齢社会とは全人口の中で65歳以上人口が占める比率が21%を超える状況を指します。日本は2007年に超高齢社会に入り、2024年の比率は29.3%（総務省推計）に達しています。

日本は先進国の仲間入りを果たしたのちに、超高齢社会に入りました。日本は財政的な余裕をもって高齢化に対応できる国といってよいでしょう。ところがタイの一人当たり所得水準は、先進国のレベルには遠く及ばない状態です。「豊かになる前に老いる」タイでは、年金等の社会保障制度の整備が追い付いていません。タイの子どもたちを待ち受けるのは、このような厳しい現実です。

両親不在のため、わずかな祖父母の年金に依存して暮らす子どもたちに奨学金が届くことを願うばかりです。

上田曜子さん プロフィール

1958年生。新潟県出身。学習院大学卒。同志社大学名誉教授。専門は開発経済学、タイ経済論。民際センターの支援者であり、これまでの経験を活かし現在ライターボランティアとして活躍中。

ダルニー通信 事務局掲示板

① 「プロボノ」募集中

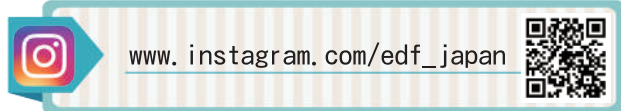
広報資料(チラシやパンフレット)のデザイン、動画制作、動画編集ができる方を募集しています。ご興味のある方は、民際センターまでお問い合わせください。

② 「支援者の声」を募集しています

皆様の声を民際センターのホームページやダルニー通信でご紹介させていただきます。ご支援された経緯、奨学生とのエピソード等、文章、動画、何でも結構ですので、民際センターまでお寄せください。

③ SNSもご覧ください

民際センターの公式LINEを始めました！
現地の情報や国内の活動記録など発信していきますので、下記QRコードから、ぜひ登録をお願いします。



④ 民際センターの活動を支える 「民際サポートプログラム」のご支援を随時募集中

民際センターや各国事業所の事業活動全般の他、支援対象国の教育の現状調査、支援者様への報告やサービス利便性の向上、デジタル化に対応するICT投資等、事業計画や活動そのものを支えるためのご支援を随時募集中です。

詳しくはホームページをご参照ください
www.minsai.org/msupport/



クレジットカードによる自動引落はこちらから
マンスリーサポート(毎月定額のご支援)
www.minsai.org/donate-minsairyoku/



郵便振替でのご支援はこちらから
ゆうちょ銀行 振替口座 00160-7-664928

編集 後記

大人になるとあっという間に時が流れていくように感じますが、学生時代に勉強する機会が与えられていた恵みに、改めて感謝する思いです。民際センターの支援地域に住む生徒たちは、勉強できることが当たり前ではない環境に暮らしている生徒が多く、奨学金支援があるかないかで生活が変わると言っても過言ではありません。最近、30年前に支援を受けていたタイの元生徒から連絡があり、現在も奨学金の支援を続けておられる支援者様にお手紙をお届けすることができ、職員としても涙しました。人と人をつなぐこの活動を長く続けていけるように、頑張りたいと思われました。

▶「ダルニー」とは… 民際センターが奨学金を募り1対1の教育支援を始めるきっかけとなったタイの女の子の名前



公益財団法人
民際センター

公益財団法人 民際センター

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-6-13 山三ビル7F
TEL : 03-6457-5782 / FAX : 03-6457-5783
E-MAIL : info@minsai.org / HP : www.minsai.org